

東京・八王子・水戸地本

「歴史に例のない組合脱退強要を許さず、健全で安全な職場を目指す連絡会」の結成!!

結成趣旨

JR東労組にかけられた脱退強要事件は、2018年2月9日の野球部組合員の脱退から始まり、産経新聞の報道、JR東日本会社幹部による「職場巡回」が現場長等との脱退謀議を重ねる場として活用されるなど、歴史に例を見ない脱退強要事件として明らかになっています。そればかりか、経営幹部の意を体する現場長や組合員資格のある助役までもが脱退策動に加わる会社をあげた脱退強要は、憲法第28条で保障された団結権の侵害であり、労働組合法第7条3項の支配介入の不当労働行為です。そして、正常な職場運営や職場秩序を乱し、業務を妨げ、まじめに働く社員の心を壊しています。

私たちは、18春闘のレベルを超えてかけられた脱退強要事件として捉えています。会社は「4万人体制・生産性向上・施策推進」を経営の論理のみで進めるために、組合員をJR東労組から脱退させる「非組合員化＝ものを言わない労働者づくり」を目指しています。したがって、私たちの課題は施策に向き合うと同時に、ものを言うJR東労組を強化・確立していくことです。

それに対して、各地方本部及び中央本部の一部役員の中では、不当労働行為に抗する闘いに支援・連帯をすることで「不当労働行為の救済申し立てを取り下げる」という声があがっています。会社は、本部や地方交渉で「不当労働行為を行う意思はない」「把握していない」「個別の受け止めの違い」と回答し、不当労働行為を一切認めませんでした。私たちは職場の脱退強要を止めるための一つとして、労働委員会で救済申し立てを行ったものです。

今なお、職場では会社による脱退強要が行われています。私たちは、JR東日本会社による不当労働行為のすべてを内外に明らかにし、脱退強要をやめさせ、組合員が安心して働くことができる職場をいち早く取り戻すために「歴史に例のない組合脱退強要を許さず、健全で安全な職場を目指す連絡会」を結成します。そして、労働組合の正義を貫き、労働組合が労働組合であり続けるために声をあげ闘い抜くことを明らかにします！

連絡会共同代表

田中正文（東京地本）、仲澤一貴（八王子地本）、山口真広（水戸地本）

把握した不当労働行為は全て明らかにします!